

■双鳳文八稜鏡■

当館にほど近い、河南町（かなんちょう）馬谷古墓（うまたにこぼ）から出土した銅鏡です。

このたび、当館で長期でお借りすることとなりました。

鏡の裏面には文様があり、左右に二羽の鳳凰（ほうおう）、上部に花、下に鳥を表しています。

百済王氏が活躍したのと同時期の、奈良時代から平安時代にかけての資料だと考えられます。

この鏡の特徴である八つの角をもつ鏡は、平安時代によくみられる形式で、この鏡も平安時代に属する可能性が高いかと思えます。

今後の研究で、こうした優れた資料がもたらされた歴史的な文脈を明らかにする必要があります。